
紅伝統記

愛桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紅伝統記

【Nコード】

N6322V

【作者名】

愛桜

【あらすじ】

地球は滅亡を迎えた。

人類は絶滅の危機に瀕した。

元日本国領土、今ここに新たな国が目覚めようとしている――

序章

―暑過ぎる。

その男は目を細め、容赦なく注いでくる光を憎らしげに仰いだ。
そこは砂漠地帯――太陽ばかりが元気で、生物と呼べるのは自分位。
他にあるのは、過去の遺産である傾いたビル群だけだ。

「…これではもう…この地域に生きてる人間はいないか…」

世界が崩壊して、早30年。

何がきっかけだったと言い難い。それらはほぼ同時に、世界中で起きた。

―秩序の崩壊。

今までの技術、人間の足掻きは全て無駄となった。

天災に継ぐ天災、そして人災、人災を呼び寄せた人類が、また人類への裏切りをし…。最後には自然が人間を見捨てた。砂漠化、水没化、植物等の急激な成長…人類はいつしか淘汰され、ひっそりと生きる事を余儀なくされた。

それまで我が物顔で世界を謳歌していた人類は、呆気ない程簡単に排除され、今まさに絶滅しようとしていたのである。

―この場所も、見捨てられたか…。

風が強い。砂嵐になりそうだ。

男は砂除け用のマントを口に充て、どこへともなく歩き出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6322v/>

紅伝統記

2011年10月9日13時01分発行